



TITLE:

表紙・目次・奥付

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・目次・奥付. ディアファネース -- 芸術と思想 2014, 1

ISSUE DATE:

2014-03-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/216988>

RIGHT:

ディアファネース

芸術と思想

京都大学大学院人間・環境学研究科
岡田温司研究室紀要

№. 1
2013年度

ディアファネース——芸術と思想

京都大学大学院人間・環境学研究科岡田温司研究室紀要 第一号 2013 年度

目次

【講演】

- ロベルト・エスポジト
イタリア哲学の回帰
——その起源とアクチュアリティ 5
- マウリツィオ・ベッティーニ
ウェルトウムヌス
——様々なアイデンティティを持つローマの神 19

【論文】

- 鯖江秀樹
ローマ万博の光と影
——ジュゼッペ・ボッタイのまなざし 33
- フランチェスコ・カンパニョーラ
「文芸共和国」の分断
——学問の共同体における制度と個人 51
- 佐藤真理恵
顔を逃れる顔
——古代ギリシア世界におけるアプロソボス試論 69
- 田口かおり
近代イタリア修復学と《マドンナ・ピカソ》
——1972 年「フィレンツェ・レスタウラ（フィレンツェは、修復する）」展を中心に 89
- 日塔理恵子
ジャンバッティスタ・マリノーの『ガレリア』と蒐集
——理想と現実のギャラリー 117
- 古川真宏
世紀末ウィーンの芸術における病理学的身体
——クリムト的女性像に関する一考察 147

【展評】

- 大木美智子
寄る辺なき身体——暴力と変容の場
——アナ・メンディエッタ回顧展『Traces』 177
- 欧文要旨 181

【編集後記】

『ディアファネース』の創刊号をここにお届けします。この名称は、「見るもの」と「見えるもの」の二項に還元されることのない第三項にたいして、アリストテレスが『デ・アニマ』のなかで与えた新造語に由来するものです。そこに人文科学のひとつのパラダイムが宿っています。求心的にしてかつ遠心的、アクチュアルにしてかつアナクロニック、深層的にしてかつ表層的、繊細にしてかつ大胆、知的にしてかつ痴的、そんな研究をわたしたちは目指していきたく考えています。主旨にご賛同いただき、編集委員をご快諾いただいた方々に、この場を借りて心より感謝申し上げます。執筆するのは、当研究室に所属する者、あるいは所属していた者となります。当研究室の主催になる国際シンポジウムやワークショップの原稿や記録も、随時取り上げていく予定です。読者の皆様のご批判を賜りますなら、まことに幸甚であります。

岡田温司 識

【編集委員】

青山勝（大阪成蹊大学芸術学部）
秋庭史典（名古屋大学大学院）
上村博（京都造形芸術大学芸術学部）
岡田温司（京都大学大学院人間・環境学研究科）
金井直（信州大学人文学部）
喜多村明里（兵庫教育大学）
篠原資明（京都大学大学院人間・環境学研究科）
松原知生（西南学院大学国際文化学部）

【編集幹事】

古川真宏
古川萌

ディアファネース——芸術と思想 第一号

発行日：平成 26 年 3 月 30 日

編集・発行：京都大学大学院人間・環境学研究科岡田温司研究室
〒 606-8501 京都市左京区吉田二本松町

印刷：株式会社 キクザワ
〒 602-0005 京都市上京区寺之内通り新町西入る妙願寺前町 506

Diaphanes: Art and Philosophy

Number 1

The Bulletin of Atsushi Okada Laboratory

Graduate School of Human and Environmental Studies, Kyoto University

Issued on 30 March 2014